

離れていても一緒に楽しもう！

穂の国地区 豊川第4団 ビーバー隊長 黒柳 喜子

スカウト宛で「ビーバー通信・特別号おうちでチャレンジ」を郵送、ラインを使って動画や写真で報告して貰い、スカウト達の刺激になりました。また、保護者から「グループ通話しませんか？」と提案があり、ラインのグループ通話を使っただけの隊集会が実現しました。歌もピアノの伴奏つき、と思わぬ利点も見つけました。1回目はおもちゃ作り（工作）、2回目は一人1枚ずつ紙芝居を読む「リモート紙芝居」を行いました。発想を変えることで新たなプログラムができそうな、そんな可能性を感じています。



がんばるすがた

穂の国地区 豊橋第4団 ビーバー隊長 有村多貴子

活動自粛の中、我がビーバー隊は「おうちスカウティング」を始めました。木の葉章の細目から抜粋した「おうちで出来る木の葉カード」を作り各家庭に送付し、自分ができたことをカードに書いてもらいました。今回の活動では保護者の皆さんと連携しLINEを使用し子供達の様子を画像付きで報告して頂きました。お家のお手伝いや、整理整頓、廃材で作る工作、早寝早起き、失敗しながらも最後までやり遂げたドミノたおしなど、それぞれちがう活動をしていましたが子供達の頑張る姿に自然と笑顔になりました。保護者の皆さんとのやり取りもとても楽しくできて、まるでいつもの隊集会みたいに盛り上がりました。



活動再開に向けて

碧海地区 碧南第2団 ポーイ隊長 奥谷 雅憲

私の隊では、例年3月の連休に高校受験を終えた中学3年生のスカウトとのお別れ集会として1泊のキャンプを行い、その頃には班長会議やスカウト全員の話し合いで4月からの新年度に向けた年間プログラムの計画をしていました。

本年はお別れ集会もできず、今もなお年間プログラムを計画することもできていません。自粛の間にスカウト達には、活動が再開したらどんなことに挑戦したいか、これまでの隊集会で楽しかったことなど考えておくように、保護者の皆様にメールで発信していました。また、これまでに得た技能や知識で苦手とするもの、例えばロープや手旗などを自分で練習する、新たな結びなどへ挑戦してほしいことも伝えました。スカウトが取り組んだことをいくつか紹介します。野営で炊事の火起こしに時間がかかっていたので、火起こし練習したスカウトがいました。どの程度上手になっているか次の野外料理、キャンプが楽しみです。鉋で竹を割って、竹細工に取り組んだスカウトもいます。割竹を使って、たちかまどの火床になる部分をアレンジして日よけにして犬小屋(?)作りをしたとのことでした。班長は気になる国について調べました。その国の宗教のことなどを調べて、まとめているとのことでした。「次の隊集会では発表したいと思います。」とのことでした。また進級に繋がるようにハイキングにも挑戦したようです。報告書も再開したら提出してくれるそうです。

例年とは全くことなる新年度のスタートでしたが、スカウトはそれぞれに成長しているんだな～と実感させられました。隊集会で成長したスカウトに合う日が楽しみです。(スカウトが挑戦したノッティングボードの写真です。)

